

# めだかの学校だより

平成21年2月1日  
第63号

学舎：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL0539-62-6691

## 校長訓話

第六十三回 校長 藤野 はつえ



「第63回めだかの学校 校長 藤野はつえ！」もうびつくりです。しばらく胸のどきどきが治まりませんでした。衝撃的と言えば、めだかの学校に初めて入校した時の事を思い出します。「何なのこの人達？」今まで経験した事のない出会いでした。それから、今現在私はそば屋の花番をしています。皆さんもご存じの通り主人が5年前にサラリーマン生活からそば屋に変

身したからです。不安いっぱい51歳のスタートでしたが「コツコツ、地道に」をモットーに……。何とか今に至っています。めだかの学校の皆様には本当に計り知れないほどの応援をいただきました。もちろん、今もです。感謝の気持ちでいっぱいです。

個性豊かな生き方をしているめだかの皆様との出会いがあったからこそ、私達の生き方を変えるきっかけとなり、そば屋を開く決心が出来たのだと。主人も常々思っているようです。今思えば、その頃から少しずつ気持ちの流れが変わっていったのではないのでしょうか。

そんな気がしています。会社を退職した時に「やめてよかった。しなくてはね。」と二人でよく話をしました。始めの頃は慣れない事ばかりで失敗の連続でした。お客が来ない時は落ち込む事ばかり、大変な思いもたくさんしてきました。

そんな中で、思いがけないすてきな人達との出会いや、励ましの言葉、やさしさ暖かさを感じた。本当に皆さんに支えられているのだと実感し、学ぶ事多し、喜びも又嬉しい限りです。私達のそば屋を通して、色々な事を感じて勇気ももてたり、地域の活性化につながったり、そばを食して幸せになったり、やさ

しくなれたり、今回のめだかの学校のテーマである「流れを変える」事のお手伝いが微力ながら出来ればと、願っています。昨年、暮れのラジオ番組で「変わる」がテーマで放送しているのを聞きましたが、チェンジIIチャレンジ。第一歩を踏み出すことが変わる始まりだと。その通りですね。私もこれから出来る限り、自分史も又、変えて行きたいと思っています。そしてこんな時代だからこそ、平和な世の中に変って行つて欲しいものです。楽しい交流会だ！と気付きました。



## めだかの学校伝言板

——第63回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／藤野はつえ

教頭／加藤直樹

用務員／大貫正信

給食係／水野忠義・鈴木祐之・萩田博・古田賢二郎

大貫正信・大谷洋介・西川裕子・大谷香代子

牧野久子・渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎>静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山

みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成21年3月6日(金) 6:20PMより

受付／松下信義・三輪邦子・斉藤昭(チーフ)

<時間割>

～16期は『自助と共助』共に助け・助けられるとは～  
今回のテーマ「流れを変える」

●1時間目 地理 間瀬亮太先生

「静岡が空港を変える？」

●2時間目 社会 尾上美智子先生

「春野が浜松を変える？」

●3時間目 化学 亀澤進先生

「森が亀に変えられた？」

●給食の時間～ひなご膳～(お箸はマイ箸、持参を)

10:15 閉校

# めだかの動き

## 泳ぎ回るめだかたち

### 「観光立県しずおか」の空の玄関口 「富士山静岡空港」の開港

紆余曲折の末、6月4日(火)に富士山静岡空港は開港する。これを活かして静岡県の観光振興につなげることが私の仕事だ。本県は、世界に誇る秀麗富士山、恵み豊かな海、東西を結ぶ回廊として培われた文化、さらには温泉、花、食など長い歴史や暮らしの営みの中で育まれた数多くの魅力を持つ観光立県と言われてきた。しかし、割安な航空運賃を背景に北海道や九州・沖縄への観光や全国各地の観光まちづくりの進行によって地域間競争が激しくなり、観光客数はピーク時を下回る状況が続いている。宿泊者数はオイルショック時1980万人、昭和63年2670万人、平成3年2765万人をピークに下がり続け昨年は1930万人と30余年前の水準以下になつていく。

ここで富士山静岡空港が開港するということは、これまで直接アクセスすることができなかった北海道・九州といった国内遠隔地及び東アジアを中心とした誘客が期待できるようになる。

本県への観光客は県内や首都圏、中京圏が中心であり、就航先である北海道、九州・沖縄はそれぞれ2%を占めるに過ぎない。また、外国人の宿泊数は本県の占める割合は全国の2%弱に過ぎない。

そこで、航路就航先である北海道、福岡、鹿児島、沖縄、石川へ打って出るために、大型ショッピングセンター、駅前、大型イベントにおいて観光キャンペーンの実施している。

海外からの誘客にも相当力が入っている。現地旅行社やメディアを招いての観光地視察研修、海外での観光店への出展を行っている。また、地域限定通訳士の育成、外国人客への対応の手助けとなる「指さし会話BOOK」をセットにした「静岡県へようこそ」おもてなし日本一パーフェクトガイド」を作成し、普及を図っている。さて、6月4日開港、どれだけの方々が静岡の地を踏んでくださるのか、大いに楽しみである。

### ■農家と消費者、料理で交流

磐田市・深澤明男メダカが会長を務める農業者グループ流通研究会&今村純子メダカの人脈が集まった見付・中泉地区を中心とした消費者グループ「案々ファーム」との料理交流会が、1月24日磐田市立豊岡東公民館(館長榊原幸雄メダカ)で開催された。

メニューは研究会会員が栽培した海老芋・白ネギ・お米・豆類・卵・さつまいも・お茶・ミカン・メロンなどを案々ファームの皆さんが考案した「豊岡汁」「テップス」や、「海老芋お汁粉?」「メロンプリン」など、さすがプロの主婦、2時間で八種類の「馳走を完成させた。締めは鈴木正士メダカ自慢の手打ちソバ。

発端は、直売を目指す農家が流通を研究しようとして「流通研究会」を発足。金津眞由美元メダカ・原崎小百合元メダカなどからマーケティング勉強会を重ねるうち、今村メダカの提案で市街地消費者と農業現場交流をスタートさせたもので十年前から継続。今回は旧豊岡村特産部会の産品試食展示も有り千葉・横浜からも飛び入り参加者が・・・活発な懇親会場には若森光子メダカの洗剤と動き回る姿があった。

伊藤英雄メダカ

■大平山荘で鈴木輝隆氏を囲んで  
1月下旬、歩くインターネットの異名を持つ、江戸川大学教授の鈴木輝隆氏が来静されました。輝隆氏は異色の経歴を持つ大学教授で、山梨県庁在職時に日本全国の地域づくり活動に深く関わり、地域の活性化を成功に導きました。

静岡県内では、特に遠州地方各地の地域づくり関係者と交流があり、かくいう私も輝隆教授のお招きで、江戸川大学や法政大学などの教壇で、地域づくりの実践者として活動事例のお話をさせていたたりしました。今回はそういつた関係で、旧知の友の鈴木正士メダカの大平山荘を訪れました。当日は夜遅い時間だったにもかかわらず、榊原幸雄メダカはじめ、地元の金原志郎メダカ、尾上美智子メダカ、村松達雄メダカ、深谷元メダカなど大勢の人たちが駆けつけ、旧交を温めながら日本全国で頑張っている人たちのお話を聞くことが出来ました。

鈴木正士メダカ

### ■遠州に春の訪れを告げる

#### 「三熊野神社大祭」

遠州路に春の訪れを告げる「遠州横須賀・三熊野神社大祭」今年の大祭は4月3日(金)4日(土)5日(日)、遠州横須賀の町は祭り一色に染まります。古の「江戸天下祭」の流れを汲む十三台の祢里(ねり)山車)が繰り出し、狭い城下の町並みを三社祭礼囃子の名調子にのって練り歩きます。4日(土)午前10時半には、十三台の祢里が三熊野神社境内に集合、当番町による「三社祭礼囃子」(静岡県無形文化財指定第1号・昭和三十年)の演技奉納を行なわれます。最終日5日(日)には、お神輿様の渡御行列に供奉した、十三台の祢里は町を一巡、夜9時過ぎには再び三熊野神社へ戻ってきます。そして舞屋の上では「千秋楽」の儀式が行なわれ、3日間にわたった大祭はお開きとなります。

「遠州のお祭りは横須賀に始まり、森に終わる」  
鈴木正士メダカ

### ■はるの花咲け

#### にこにこ胡コンサート

浜松市天竜区春野町長蔵寺信濃畑(尾上美智子メダカ)では、4月12日(日)、午前10時30分(受付)から、お花見と散策交流会を行います。おもてなし交流会は午前11時30分から、二胡と電子オルガンによるコンサート。定員は50名。お申し込み・お問い合わせは仮称「春野いいとこ住んでみれば会」尾上美智子(0539・88・0133 FAX同)

### ■豊岡東公民館一周年記念

#### 「公民館祭り」 応援団募集!

磐田市立豊岡東公民館では、3月29日(日)午前9時から午後3時まで、「公民館祭り」を行います。「みんなで楽しくやろう!」と、演芸会と展示会、野外でのお店などを計画。めだかの学校からは鈴木正士メダカの手打ちそば、深澤明男メダカのとよおか豊研21の農作物、榊原幸雄メダカのコヒーショップ、藤田潤吉、久枝夫婦メダカ、八木正子元メダカらの、雄踏花蝶ちゃんのチンドンがまつりの盛り上げに協力。地域の人たちと一緒にやります。応援団募集中です。お問い合わせは0539・62・6691榊原まで。

# 「人ひと・ヒト」だより

●浜松市浜北区の本間稔メダカ。今年の干支「己・丑（つちのと・うし）」。「己」コ。おのれ、糸筋をかける。乱れを正しておさめるの意。丑「ウウ、曲がったものを伸ばす、始める。掴む意。今年は、筋道をはずさず最後まで貫徹していくことです。」「混迷した時は、創業の理念・精神に戻る」とを歴史は教えています。安岡正篤著、干支の活字より。歴史に学びましょ。今こそ。

●浜松市の武井紀雄メダカ。今年も敬愛なる坂村真民さんの詩を贈ります。

『ねがい』見えない 根たちの ねがいがこもって あのような 美しい花となるのだ 真民

—私の願いは、かつてのような元気な私になること。多くの人たちと語り合い、そして一緒に大きな声で歌をうたいたい、いろいろな発想ができるようになることです。

●藤枝市の小嶋良文メダカ。2009年の言葉として鎌山秀三郎さんの詩を贈ってくれました。

『生きる知恵』現代人の不幸は、有り余る幸せを与えられているにもかかわらず、満足していないことです。逆に、取るに足らない 小さな苦勞を 自分自身で勝手に大きくしていることです。幸せに生きるためには、大きな不幸や災難を 小さく受け止め 小さな喜びを大きく膨らますことです。かつての日本人は 無意識のうちにそういう知恵を 身につけていたように思います。

●掛川市の水野忠義メダカ。旧年中の「変」を返上。新年は「モー」すこし元氣を出して楽しみたい。と。

●愛知県東栄町の森下幸子メダカ。「めだ

か」を通じて多くの友が出来「謝々」。七路を前にしてスローライフの中にスローフードがある事に気付き、やりたい事をやるだけやる年にしたい。と。

●浜松市の句坂玲子メダカ。（バラ作りに挑戦）いよいよ10年目です。めだかに行かなかつたら、出来なかつたコトですと。

●静岡市の高橋俊光メダカ。昨年春から駿府博物館勤務。仕事も人生も新しいものにチャレンジと、初めてフルマソンにハワイホノルルへ行ってきました。完走出来ました。と。

●浜松市引佐町の石野省三メダカ。子年の昨年はネズミもがいたすらして大変な年に。後は野となれ山となれの社会習慣が恐ろしい。今年はウシにならって、ゆっくりにゆったりゆたかに歩めば、きつとよい縁が待っていることを信じましょう。

●千葉市川市の千葉弓江メダカ。お元氣ですか？私は元氣にやっています。今年も去年だけに「モウくだから」を減らしたいです。

●浜松市の鈴木真弓メダカ。1月2日、25日まで富嶽ヒエンナーレ展、2月1日、28日まで、遠鉄助信駅近くのギャラリーケイブで、Art. Joint 4展。4月30日、5月5日まで、東京表参道のプロモ・アルテ・ギャラリーでArt. joint 4展だつて。

●磐田市の濱田綾子（あやい）メダカ。4月14日、24日まで、島田市井口のスペースMayaで蚊帳アート。スペースMayaは岩本伴江メダカがオーナー。皆さん見に来て下さいだつて。

●掛川市の萩田博メダカ。「行動こそ」目標達成（成功）への点火である。何も行動せずに現状にもがいているくらいなら、むしろ行動して失敗したほうがマシである。評価されるのは行動による結果のみであ

る。と。今年も意気盛ん。

●浜松市の加茂光廣メダカ。年男の六十歳です。健康草笛で「葉っぱ」に!! で行きます。

●掛川市横須賀の鳥山剛メダカ。遠州横須賀倶楽部の家老職。最近日は帰郷温泉の旅を楽しんでいます。

●愛知県長久手町の横田浩臣メダカ。昨年の夏の終わりに植物観察仲間とブータンを訪ねました。私は人間観察に専念。国民の幸福を唱えている国王のもとで、国民の幸福の原点は家族（仲間）でした。日本人には、とくに男性には苦手な行為であると気づいているこのころです。

●浜松市の大谷洋介メダカ。「人生意気に当たり 功名亦何を論ずるか 号堂翁書（尾崎行雄）。1月2日、4日までアクトの骨董フェスタに出店。経営の寿山堂には、掛軸から骨董美術品まで。所狭しと満席に。刀剣鑑定士でもあります。

●浜松市の藤田吉恭メダカ。手創り工房「和の森」を、浜松市中区秋丘でやっているが、心機一転、鹿谷の店舗をリニューアルして、4月24日から移転オープンします。と。電話 今まで通り 053・471・0555。

●磐田市の今村純子メダカ。遠州常民文化談話会の会員として 民族記録冊子「遠州の常民文化」発行に關わる。女性会員の今村メダカは、明治昭和初期にかけての女性の出産体験談の数々を集め、当時の出産がいかに大変だったか、妊婦を取り巻く環境などを執筆。冊子は1部七〇〇円。県文化財団から地域文化活動特別賞を受ける。

●愛知県豊田市の堀田正子元メダカ。エッセイ集3冊目を出したと、エッセイ集「さみしさもとき」を贈ってくれました。豊田市で、「ご主人の元メダカと養豚業を営むかたわら、創作活動をしている。また横田

浩臣元メダカらと三月に一度、小麦生塾を開講している。

●長野県飯田市の長谷部三弘友人メダカ。風土舎も18年たちました。どうにかやっています。活動祈念しますと。手書きの風土舎通信を毎月発行。202号に。地域でなくてはならない人。人財産もさすがです。

●宮城県気仙沼市の牡蠣の森を慕う会代表の島山重篤友人メダカ。文芸春秋社から「鉄が地球温暖化を防ぐ」を出版しました。と。「力キ養殖をしていたが、あるときから生産性が落ちてきた。上流で開発が進み湾に栄養が流れこまなくなった。その「海は森の恋人」の著者です。

●浜松市の内山ゆきあメダカ。子ども環境劇団PAFを主宰し、3月22日は今年もザザシティ前で、「激練りMUSICパフォーマンスコンテスト」。10月31日には国文祭で徳川家康「三方原合戦」を公演予定など、大活躍。

●浜松市引佐町の鈴木計芳メダカ。言い出したので昨年3月急逝された伊藤茂男メダカが亡くなられてもうすぐ一年になります。伊藤さんは、県グリーンツーリズム協議会の会長を長く務められ、また浜川の観光体験施設「てんご」を運営するNPO法人「大好き浜川」の理事長など、旧引佐町の役場時代から観光行政の第一人者として県内はもとより全国に名前が知られた人でした。と熱い思いをつづってくれました。 合掌。

※今回の人ひととヒトだよりは、たくさんいただいた年賀状の中から、ほんの少しだけ紹介させていただきます。また記事量が多く、次回へ回させていただきます。割愛させていただきますのも多く申し訳ございません。ご了承ください。

# トピックス

■森町の「森螢の会」県景観賞で優秀賞  
うん、静岡新聞に見馴れた顔が三つ。

森町の松下信義メダカと亀澤進メダカ、それに村松藤雄町長（元メダカ）。静岡県景観づくり活動を対象に行われた「第一回県景観賞」（美しいしずおか景観推進協議会主催）で、県内91件の応募の中から優秀賞に選ばれた。その報告を村松町長にしてある記事だった。この「森螢の会」、あのお尻の光るホタルではなく「手作りのあんどん」で夜の街並みを照らす森螢。嘗ての秋葉街道の宿場町として栄えた森町の中心部に賑わいを取り戻そうとはじめた活動の会。まだはじめたばかりの活動とはいえ、「街並み威展」といい、森町のめだか生の頑張り拍手。

■取手市の篠原準八メダカ。昨年10月に「食べごろ摘み草図鑑」（講談社）出版  
摘み草クッキングを主宰し、全国摘み草

フォーラムを束ねる篠原準八メダカ、標題の本を出版。定価1700円。毎日新聞記者を早期退職。「野草を食べよう」と、全国をとび回って久しい。その元氣さ、まさに野草のおかげ、とか。毎年4月29日には、浜松市天竜区の石神の里（代表吉林宏メダカ）で開催される「摘み草ウォーク」で、先生として摘み草の楽しさとクッキングを指導している。因みに初期のめだかの学校の給食は、この「野草料理」でした。  
■習志野市の市原実特待生、地域再生の仕掛け人「観光カリスマ100選」出版  
山梨県立大学教授で、めだかの学校大学院参加の市原実メダカ。地域を動かし再生に成功したカリスマ仕掛け人から学ぶ成

功への哲学「地域を元気にするのも、最後は人の力」――3年かけて取材し、まとめた『観光カリスマ100選』日本文芸社から出版。定価千円（税込み）。著者の『安く』の希望で取材費も印税もゼロだった。申し込みは書店かFAX047・470・1166市原まで。

## ■事務局だより

寒い寒いと言っているうちにもう立春。『鬼は外、福は内』の声があららこちらから聞こえてきます。梅の花も満開。そして風邪の季節。みなさんは大丈夫ですか？私には仲間入りさせていただきました。アメリカからはじまった不況風は、世界を席捲。大手企業の利潤の多さに私たちもウアウハアと乗せられていたら、その不況風は、そんな大企業から派遣切りやリストラやら……と一気に降りおろされてきました。あらためて大企業の利益追従一辺倒の経営理念と倫理感欠如を思い知らされて……

切て、第16期のめだかの学校の通念テーマは『自助と共助』――共に助け助けられる心とは：向こう三軒両隣り。落語の熊さん、八つあんの世界では、と思ったりして。第62回めだかの学校は、12月6日（金）毎回のことながら12月は少ない。忙しさと体調不調と。校長は伊藤英雄、教頭は池田タキ江、用務員は服部守孝。テーマは「めだかの学校ルネッサンス」。一時間目は牧野久子先生、めだかの学校の15年、ゆつたりとした話の中に、めだかの学校の歴史が……。二時間目は村木謙一先生、『B（旅行会社）からはじまって今のガラス工房まで、山あり谷あり人生の中途（なかみち）

を語る。笑顔の裏には、泣き笑い人生の不屈の精神が……。三時間目は豊田由美先生、母故佐野玲子メダカの手がけたブルベリ―園と農家レストランの思い出、それを引継ぎ、子育てしながら発展させていく情熱を語る。そして伊藤校長、うん？緊張？：何言ってるの？：と思っていたら、さすが長老。人生はルネッサンス、車の営業マン時代から農業時代の、ちよっと起伏のある人生体験をかたれる。

お待ち兼ねの給食、服部用務員の立っての願いで『ぞうすい』盛りたくさんの具。われら戦時体験とはほど遠い『えび辛ぞうすい』。美味しかった。私語飲食全て禁止の次回3役発表。校長藤野はつえ、教頭加藤直樹、用務員大貫正信。若き人材を教頭に抜てき？。支えるはいぶし銀の用務員。どんな味が出るか、藤野校長の手腕か。そして3役引継ぎなぜかこの時、役得かみな嬉しそう。真砂典明メダカの木彫りの工トは年女の西川裕子メダカと豊田由美先生にプレゼントされた。ではみなさま、良いお年を！。

第63回めだかの学校の職員会議を、20年12月18日（木）、磐田市の元氣村、味里」で忘年会を兼ねて行なう。校長、教頭、用務員3役揃いぶみ。「：派遣切りやリストラで、年越しもできないだろう人の続出！。私たちひとりひとりが何ができるだろう？――そんな話から、『流れを変えよう』と、第63回のテーマは『流れを変える』。それを受けて一時間目、地理「静岡が空港を変えろ」間瀬亮太先生。二時間目、社会「春野が浜松を変えろ」尾上美智子先生。三時間目、化学「森が亀に変えられた」亀澤進先生。「文法的に主語がおかしい」ところがあるようにだけ……「いいの、いいの、これがめだか流」。第63回は平成21年3

月6日（金）。給食はひなご膳。授業ともどもお楽しみに。  
■毎号もお詫びとお礼を……  
相変らず発行日の2月1日になっても書けない。武ちゃん書いて、英ちゃん書いて……など泣き落とし。そんな私を暖かく支えてくれるのは伊藤英雄、溝口久、鈴木武史、本島慎一郎、濱田綾子、間瀬亮太らのメダカさん。ありがと、感謝。

■第16期の継続と申し込みについて  
第16期は、平成20年9月1日から21年8月31日。申込み手続きがなされていらない生徒は今回をもって名簿からはずれ自動退学となりました。継続は随時できますので、ご連絡ください。また入学希望者がありましたら、ご連絡ください。資料（めだかの学校だよりと、めだかの学校の全てが分かる15年誌12000円）と、申込書を事務局から送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を！  
次回の発行日は平成21年5月1日、原稿の締切りは4月20日（月）です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、  
《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
（メールの方は割付の関係もあるので一報を。）

■めだかの学校の事務局  
〒438・0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL0539・62・6691（FAX同じ）  
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡・お問合せは事務局へ。

